

組合ニュース

発行：2012年11月21日

大分大学教職員組合

TEL・FAX：097-554-7998

E-Mail: oitauu@fat.coara.or.jp

特例休暇勤務手当に2千数百万円！ 本当に5月から賃金カットは必然だったの？

法人より退職金大幅カット・現給保障廃止の提案

第5回団体交渉報告

11月7日に第5回団体交渉を行いました。以下に詳細をお知らせいたします。

■ 退職金大幅カット問題

～退職金の削減は労働契約違反～

● 大幅なカット提案

法人は国家公務員の退職手当法が成立すれば、私達の退職金を国家公務員と同様に削減する予定であると表明しました。法案の成立を前提として、2013年1月1日以降から6%カット、同10月1日から12%カット、2014年7月1日から17%カット（国家公務員平均で403万円のカット）という極めて大きなカットです。

● 退職金は賃金の後払い、法人は退職金維持のための経営努力を

これに対して組合は、退職金は賃金の後払いであり、一方的な削減の提案は不当であること、国家公務員の退職金削減に自動的に連動させるという対応は法人役員としての経営責任を果たしていないこと、退職金を維持することを基本とする経営努力をすること、維持が不可能な場合でも削減幅を小さくする・代償措置を講じるなどの経営努力をすること、本学教職員のカット額がどの程度となるかのデータの提出などを求めましたが、法人は経営努力をする意思を全く示しませんでした。

● 退職手当法はあくまで国家公務員に関すること

今回の交渉後の11月16日、衆議院のドタバタ解散の中で国家公務員退職手当法が成立しました。しかしこの法律はあくまで国家公務員に関する法律です。同法に連動した退職金の大幅なカットをさせないよう私たちの力を結集しましょう。

■ 現給保障措置の廃止問題

～年度末の約束の再確認を要求～

法人は本年3月、現給保障措置を2014年4月から廃止する方針を表明していました。組合や職員代表委員会の努力で、この廃止方針の棚上げ・再検討を約束させました。ところが交渉の場で法人は、本年3月末に約束したことは廃止決定の時期を1ヶ月延期すると約束しただけであるから廃止決定を行うと述べました。組合は、法人の見解は事実誤認であり、廃止方針の再検討・組合との再交渉などを求めました。法人は約束の事実確認をすると答えました。

■ 給与削減問題

● 法人は、特例休暇の財源を不提示

今回の給与削減では、5月段階ですぐに実施しなければ予備費が700万円しかないため、予算が足りなくなるという理由で削減されました。ところが法人側は10月になって、特例休暇に必要な財源2000数百万円が工面できるとしました。私たちは今回の団体交渉でこの2000数百万円の出所について追及しました。法人は、「大学全体の中で整理する」という言葉を10回以上繰り返すだけで、なぜ700万円の予

備費しかなかった予算から2000数百万円の費用が捻出できるのか、大学のどの予算部分を財源とするかは明らかにしませんでした。しかし、交渉を通して理事が明言した重要な点が二つあります。

●給与削減をなぜ1ヶ月でも遅らせることができなかったのか

まず、組合が、「全体を整理して余裕資金が生まれるなら、なぜ4月段階で余裕資金を捻出し、給与削減を1か月でも遅らせて実施できなかったのか」という質問に対し、法人は答えを二転三転させながら、「4月最後の役員会にて議論したが、捻出できなかった」旨を発言したことです。かりに役員会で捻出できないことが確認されていたならば、なおさら現在2000数百万円の余裕資金が生まれた理由が理解できません。また、法人は給与削減時期を6月に遅らせたとしても労使間で合意が得られず、7月以降にずれ込むことを懸念して5月に実施したと発言しました。これは「毒を食らわば皿まで」と宣言しているようなもので、労働者に負担をかけることへの自覚と反省がないことを自ら吐露しました。

●代償措置を拒否

さらに、総務理事が「代償措置を要求されるならされればいいじゃないですか？ 予定はありません」と発言しました。これは特例休暇が代償措置ではないというだけでなく、給与減額に対して代償措置の検討すらしないことを明言しました。これは労働契約法第9条違反です。今後組合は法人に対して、不明確な予算の出所を明らかにさせるとともに、法的責任と道義的責任双方を追及していきます。

秋の組合祭(ユニフェス)開催

参加のみなさんありがとう！

ユニフェス大盛況！

10月31日に秋の組合祭（以下ユニフェス）を生協テラスで開催しました。恒例のバスハイクとは趣向を変え、一人でも多くの組合員、また未組合員の方々にも

足を運んでいただけるような学内でのお祭りを催しました。

5月から強行された合意無き給与カットに代表されるように、今の法人は現場で働く教職員の声に耳を傾けようとする誠実さを欠いているように思えてなりません。結果、本学のキャンパスは活き活きと働けるといよりは、どこか重い空気の漂う空間になりつつあるのではないかと、そういった危惧もあり、今年度はより多くの笑顔や愉快的な雰囲気が学内に広がるきっかけになればと執行委員でユニフェスを企画しました。

当日は天候にも恵まれ、多くの教職員のみなさんが参加されました。例年のバスハイクに参加出来ない方や、未組合員の方々にも足を運んでいただきました。組合員お手製の秋の味覚ブースはどれも盛況のうちに店じまいとなりました。また大分大学教職員のタレントを集結したミュージック・コンサートも秋の楽しい一夜に花を添えてくれました。

初の試みにもかかわらず、みなさんのご協力もあり秋のユニフェスは成功に終わりました。今後も一連の組合の活動が笑顔にあふれ、そして活き活きと働ける職場作りに繋がっていくことを執行委員一同願っています。

